

赤ちゃんの耳のきこえについて

赤ちゃんにとって、耳のきこえの確認はとても大切です。

それは、きこえと話し言葉の習得には深い関係があるからです。

生まれてきた赤ちゃんに難聴の可能性がないかを早く発見するために、新生児聴覚スクリーニング検査が行われています。

出産した医療機関での検査で要再検査（リファー）となり、もっと詳しい検査を受ける赤ちゃんは、全国で1年間で約4000人、このうち約1000人に両耳難聴が発見され、ほぼ同じ人数の赤ちゃんが片耳難聴と診断されています。耳のきこえの問題は目に見えず、発見が遅れがちですが、難聴を早く発見し、早期に聞く力や話す力を身につける練習ができると、それだけ良好な会話やコミュニケーション能力が得られるといわれています。

新生児聴覚スクリーニング検査はどのような検査ですか



通常、出産した医療機関において、出生後2日～退院前に行われます。赤ちゃんが眠っている間にヘッドホンのような機械をあてて、その反応を記録する方法で、10分程度で実施でき、痛みは全くありません。検査結果は「反応あり(パス)」か「要再検査(リファー)」のいずれかです。



出生時からの難聴の原因にはどのようなものがありますか



遺伝性やウイルス性の難聴、内耳や外耳等に生まれつきの障がいがあります。



新生児聴覚スクリーニング検査が「反応あり(パス)」であればきこえは心配ないですか



新生児聴覚スクリーニング検査で「反応あり(パス)」であれば検査はそこで終了ですが、その後の成長の過程で、中耳炎やムンプスウイルス感染（おたふくかぜ）の合併症等によって聴覚に障害をきたす場合があります。赤ちゃんとの関わりにおいて、耳のきこえに心配がある場合は、各区保健センターや北海道札幌聾学校乳幼児相談室にご相談ください。



新生児聴覚スクリーニング検査結果が「要再検査（リファー）」となった方へ

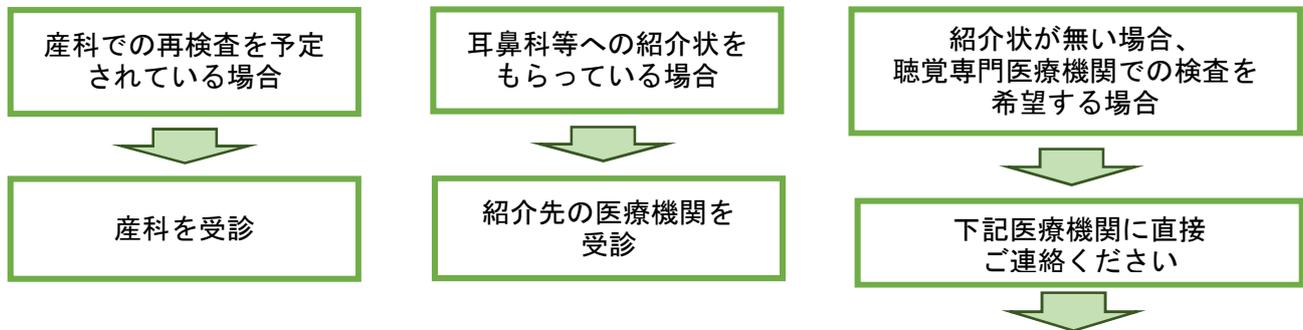
新生児聴覚スクリーニング検査の結果「要再検査（リファー）」であっても、必ずしも難聴であるとは限りません。

生まれたばかりの赤ちゃんは、耳の中に液体が残っていたり、脳の発達はまだ十分でなかったりするため、新生児期の聴覚検査が再検査になることがあります。専門の耳鼻咽喉科（下記精密検査実施医療機関）または産科からご紹介のあった耳鼻咽喉科でさらに詳しい聴力検査を受けていただく必要があります。

乳幼児の聞こえへの反応は、人見知りが始まるとわかりにくくなります。精密検査はお早めの受診が必要です。



「要再検査（リファー）」と言われたら・・・



＜耳の聞こえに関する精密聴力検査医療機関（札幌市内）＞ ※選定療養費（特定療養費）がかかる場合があります。

医療機関名	郵便番号	所在地	電話番号
北海道大学病院 耳鼻咽喉科 (紹介状必要)	060-8648	北区北 14 条西 5 丁目	011-716-1161
札幌医科大学医学部付属病院 耳鼻咽喉科	060-8543	中央区南 1 条西 16 丁目	011-611-2111
北海道立子ども総合医療・療育センター	006-0041	手稲区金山 1 条 1 丁目 240-6	011-691-5696
医療法人耳鼻咽喉科麻生病院	007-0840	東区北 40 条東 1 丁目 1-7	011-731-4133
医療法人徹仁会 厚別耳鼻咽喉科	004-0065	厚別区厚別西 5 条 1-16-22	011-894-7003
とも耳鼻科クリニック	060-0061	中央区南 1 条西 16-1-246 ANNEX レーベンビル 2F	011-616-2000
天使病院 耳鼻咽喉科	065-8611	東区北 12 条東 3 丁目 1-1	011-711-0101

「要再検査（リファー）」となって心配」「どこを受診すれば良いのかわからない」「もしかして耳が聞こえていないかも」・・・等赤ちゃんの耳の聞こえに関する心配や不安があれば、下記にご相談ください。

札幌市保健センター				北海道札幌聾学校内 乳幼児相談室	
中央保健センター	205-3352	豊平保健センター	822-2400	716-2979 札幌市北区北 26 条西 12 丁目	
北保健センター	757-1181	清田保健センター	889-2400		
東保健センター	711-3211	南保健センター	581-5211		
白石保健センター	862-1881	西保健センター	621-4241		
厚別保健センター	895-1881	手稲保健センター	681-1211		